



▲渡し場付近の潮干狩りのようす(昭和初期)\*



▲渡し船のようす(昭和15年ごろ)\*



▲記念碑を囲む「藤江渡し記念碑建立会」  
役員の皆様(昭和55年)\*  
\*印の写真提供:杉浦節治さん



▲自身が編纂した冊子を手にとって語る渡し  
場かもめ会初代会長の杉浦節治さん(右)、  
現会長の神谷正巳さん(左)



▲芳川渡し場まつりの名物「嫁入り船」(例年10月第4日曜  
日に開催)。対岸では東浦ふるさとガイド協会の皆さんが  
エールを送っている。\*昨年のようす

# “撮っておき” の たかはま

## 【第38回】

「ひと」「もの」「文化」などなど、有  
形・無形を問わず、高浜市の日常の  
暮らしの中にあるとっておきの「お  
宝」を紹介します。



▲藤江渡し記念碑と由来を伝える案内板  
(特別養護老人ホーム「高浜安立荘」の北に設置)

## 藤江の渡し

昭和31年(1956)に衣浦大橋が開通するまで、高浜市と対岸の知多半島  
の往來を結ぶ渡船場は3か所あった。その一つ、藤江の渡しは「藤江渡  
し」「藤江越し」とも呼ばれ、江戸時代に始まったといわれている。距離は、  
明治14年(1881)の営業願では5町48間(約630m)、明治36年  
(1903)では280間(約510m)と記されている。渡船時間は決まってお  
らず、日の出～日の入りの間、ある程度の人数が集まったら船を出してい  
た。大正中頃～昭和初期の運賃は大人2銭、子ども1銭、自転車・乳母車2  
銭、大八車(荷物運搬用木製人力荷車)5銭で、買い物・通勤・行商・旅行な  
どに利用されていた。衣浦湾を挟んでの縁談話も多く、嫁入り船としても  
利用されていたという。

「吉浜にはかつて青果市場が2か所あり、渡し船に乗って野菜を仕入れ  
に来た人が大勢いたもんだよ。」「昔は、藤江まで泳ぐ練習をしたものさ。  
潮干狩りや海苔の養殖も盛んだったな。」と語る杉浦節治さん(渡し場かもめ  
会初代会長・呉竹町)。「ふるさとの歴史や伝統を後世に伝えていきたい」との  
想いから杉浦さんが発起人となり、地元有志で「藤江渡し記念碑建立会」  
を立ちあげ、費用を出し合い、昭和55年(1980)に記念碑を建立した。建  
立から10年後に「芳川渡し場まつり」を始め、「嫁入り船」の再現にも尽  
力。建立から20年後の平成12年(2000)に「渡し場かもめ会」を発足さ  
せた。今年に記念碑建立35周年にあたる。

現会長の神谷正巳さん(芳川町)は「伝統・環境・福祉を合言葉に長年活動  
を続けてきたことが認められ、国土交通省から表彰を受けたこともありま  
す。これを励みに、また先人たちの想いを受け継ぎ「美しい海をふたたび」  
という目標に向かって取り組んでいきます。」と語る。芳川渡し場まつりの  
名物「嫁入り船」の花嫁・花婿は現在募集中だ。

(詳しくは27ページ)

# LEIA A PÁGINA EM PORTUGUÊS!

ポルトガル語のページを読んでください!(P.25)

# 広報 たかはま

編集・発行／高浜市役所総合政策グループ

〒444-1398 愛知県高浜市青木町四丁目1番地2

TEL (0566) 52-1111 FAX (0566) 52-1110

http://www.city.takahama.lg.jp/

電子メール info@city.takahama.lg.jp

早期配布にご協力ください。



広報たかはまは植物油インキを  
使用しています。